

キリストのうちにいる ヨハネ 5:18-20	2026. 6. 28、丘の上、NO. 776 春日部福音自由教会 山田豊
-------------------------------	--

スペインバルセロナにある、サグラダファミリア教会のイエスの塔が遂に完成しました。高さは172.5メートル、世界で一番高い教会になった、とのことです。去る6月10日はガウディの没後100年に当たり、ローマ教皇レオ14世が記念ミサを執り行い、教会を「石と色彩、光の傑作」とたたえました。長くこの教会の工事に携わっている建築家の外尾悦郎さんは、イエスの中に入るというイメージでこの塔を建てた、と言われています。この中に入った方々は、果たしてそのような印象を持ったのでしょうか？

ヨハネの手紙は、イエスによって召されて弟子となり、初代教会の時代でも、中心的な人物となったヨハネによる手紙です。キリスト信者に対して、その信仰の確信を与え、現実の罪の世にありながらも、キリストのうちにあるものとして生きるよう励ました書簡と言えるでしょう。

ヨハネによる福音書の冒頭は、イエスが人でありながら神であり、私たちはその方の生涯を見ることによって、神を見ることができると証しています。福音書と本書は、この点において響きあっているのです。5:13には、イエスを信じるものは永遠のいのちを持っていることを、聖書がはっきり示しているのだから、安心して信仰生活を送りなさい、と言っているかのような言葉です。

2コリント5:17には、キリスト者はキリストのうちにあるものであり、新しく造られたものである、と書かれています。しかしガラテヤ2:20には、私のうち、すなわちキリストを信じる者のうちにキリストがおられる、と書いてあります。すなわち、キリスト者とは、キリストと一つになっている存在であるということです。これはなかなか理解することが難しいかもしれませんが、例えば祈りにずっと入っていくと、そこにいる自分はもはや自分ではなく、イエスと一つになっているかのように感じることと似ているように思います。

サグラダファミリア教会は、まだ完成していません。たとい完成しても、それで終わりではないでしょう。イエス様を信じクリスチャンになったから、それで人生が完成した、すばらしい神の作品になったものではありません。

キリストを信じるものは、陶器師の手の中にあって土で造られている器のように、キリストの形になるまで日々を過ごす者なのです。

引用聖句

ヨハネ 1:1-4 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。

ヨハネ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

1 ヨハネ 5:13 神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。

2 コリント 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

ガラテヤ 2:20 もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

1 ヨハネ 2:28 さあ、子どもたち、キリストのうちにとどまりなさい。そうすれば、キリストが現れるとき、私たちは確信を持つことができ、来臨のときに御前で恥じることはありません。

サグラダファミリア教会 イエスの塔の内部は 5 万枚を超えるタイル張り

イエス・キリストの塔の内壁を覆う陶製のタイルは、アーチ型天井に向かって輝きを増し、“内なる天空”とも言うべき空間を生み出していた。そこは、1 世紀半近く前に建設が始まったバルセロナのバシリカ(聖堂)内でも、最も慎重に秘められていた場所の一つだ。今は完成を控えて最終段階の作業が進んでいる。青と栗色とオレンジ色の光沢が交錯するタイルの上に、金色の光が時折ほとばしり、四方にはじけ飛ぶ。

この塔の建設を指揮するのは、建築家のヘロニモ・ブシャレウだ。彼は足場やはしご、作業台、通路やケーブルが入り乱れる建設現場を抜けて、私をここに案内しながら、この塔の内部に宇宙を再現するというアイデアについて説明してくれた。「日本人彫刻家の外尾悦郎の構想です。先端に向かって細くなる筒形の塔を上っていくと、内壁の色調がしだいに明るくなり、やがては混ざり気なしの純白になります。これは天国へと続く道なのです」

(ナショナルジオグラフィック 6 月号より)